



神奈川県重症心身障害児(者)を守る会

神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘

2-11-10-103 谷口方/

第 33 号 2025/11/15 日発行



横浜臨港パーク

巻頭言

長く続いた暑い日々もようやく過ぎ去り、気が付けば今年も残すところ二ヶ月となりました。猛暑に加え、自然災害のニュースが多かったように感じますが、最近では熊に襲われるというニュースが連日報道され、心を痛めています。これらの背景には、地球温暖化、高齢化など複合的な要因があるようです。特に高齢化は、さまざまな問題に深く関わっている重要な問題です。私たち「神奈川県を守る会」にも、その波が押し寄せており、活動の継続に向けた工夫が求められていると思っています。

さて、神奈川県を守る会は、1965年10月2日に横浜市神奈川会館で結成大会が開かれ、2016年には、創立50周年記念大会開催と「いのちゆたかに」という記念誌を発行しています。その記念誌を、今ゆくりと読み返しています。この年は、7月26日に相模原市にある「津久井やまゆり園」での悲劇が起きた年です。また、この後コロナ感染症の流行があり約4～5年は活動が制限されるなど、経験をしたことのない時を過ごしてきました。

記念誌の中の親たちの座談会を読むと、胃腸や気管切開について前向きな話をされています。「医療的ケア」「医療的ケア児」という言葉を、当たり前のようにならわっている、今の世の中が来ることを、10年ほど前に感じ取っていたのかなと思いました。

これから先、どのような時代になっていくのでしょうか？ 守る会の3原則を掲げて活動してきたことを、引き継いでいく、そのための工夫を皆様と共に考えていきたいと思います。

会長 谷口 久美

第 62 回 重症心身障害児（者）を守る全国大会に参加して（報告）

2025 年 9 月 20 日 21 日両日、重症心身障害児（者）を守る全国大会が札幌パークホテルにて開催されました。その概要をご報告します。



コロナ禍のため延期が続いていましたが、以前から開催予定だった札幌での全国大会は、うれしい限りです。広い総会会場には 7～800 人が集まり、活気に溢れていました。名簿がないので不明確ですが、神奈川県からは少なくとも 3 名（うち施設関係者 1 名）参加していた事が確認できました。

20 日の行政説明は、こども家庭庁より「障害児支援施策の動向」についての説明でしたが、障害児主体の話に終始して児者一貫についての話はありません

でした。また予定時間の半分（30 分）で講演終了となるハプニングがあり、余った時間を分科会に充てる対応が取られました。

分科会（4 区分）では、それぞれ色々なお話しがあったと思います。特に第 2 第 3 分科会には、子ども家庭庁や厚生労働省のパネリストが参加しており、児者一貫や別視点からの説明もあったと推察されます。ただ、分科会に参加しなければ内容は不明であり、できれば行政説明でと思ったのは、私だけでしょうか。

自分が参加した第 1 分科会（国立施設部会）では、国立病院機構の説明と問題点が極めてわかりやすく提示されました。質疑応答も盛んで、回答時間が足りない程でした。

21 日の基調講演は、北海道療育園長の「重症心身障害児者が豊かに生ききるために」の講演でした。地域で暮らすと同様に、入所者が希望したことを実現できるような施設にするには何が必要か、首尾一貫した考え方と方法を論理立ててわかりやすく説明していましたが、この対応がどれだけ大変か敬服する内容で、素晴らしい講演でした。なおその後の式典は、粛々と開催されました。

来年の全国大会は、熊本県での開催です。皆さん是非御参加下さい。

事務局 小松 薫



基調講演 林 時仲氏

第 59 回 神奈川県重症心身障害児（者）を守る会総会（報告）

去る 2025 年 6 月 21 日に、かながわ県民センター(横浜)において、令和 7 年度神奈川県守る会総会を開催いたしました。神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市 4 県市の重症心身障害児者に対する今年度施策は、昨年に引き続き文書でご回答を頂き、総会資料にて御紹介申し上げます。総会概要につきましては、以下の通りです。

1. 資格審査（定足数）報告

総会出席者 17 名／委任状提出者 81 名 → 議決出席者 98 名
（会員総数 138 名の 3 分の 2 超え／会則第 12 条により、総会成立）

2. 議長／議事録認証人／書記

議長／中村会員、議事録認証人／高山・中川副会長、書記／岡村・佐藤良幹事

3. 議案審議

第 1 号議案 令和 6 年度活動報告

第 2 号議案 令和 6 年度決算書及び監査報告

いずれも意見は特に無く、満場一致で議案書の通り採択されました。

第 3 号議案 令和 6 年度活動計画

会員数が減少していることから、今後の守る会のあり方を検討したらどうかとの意見や、役員のなり手がいないのはどこも同じで、役員会に出てくることが大変なので、役員会のほうから各施設へ出かけてアピールしてはどうかという提案があり、これらを議事録に残すこととして採決を行い、満場一致で議案書の通り採択されました。

第 4 号議案 令和 7 年度予算書

第 5 号議案 令和 7 年度会則変更

第 6 号議案 令和 7 年度役員の選任

いずれも意見は特に無く、満場一致で議案書の通り採択されました。

議事進行がスムーズに行われたため、予定より早く総会が終了しましたので、急遽総会会場で懇談会を開催しました。会員から率直な意見が出され、今後の活動指針を検討する良い場となりました。



また懇談会後に、別会場にて懇親会を行いました。昼食を食べながら、また一部の方はお酒を交えての歓談は、リラックスしながら親睦を図る事ができ、楽しい時間が過ごせました。

事務局 小松 薫

重症児・者福祉医療施設

ソレイユ川崎

今年、ソレイユ川崎は開設20周年を迎えました。
関係各所 皆様のご協力に感謝申し上げます。

須貝研司 施設長



夏恒例の夜のイベント！
昼間とは違ったお楽しみです
浴衣で参加する方もいました☆

花火大会

プロの花火師による打ち上げで、
会場は盛り上がりました！！

夜のイベントに、沢山のご家族も来て頂けました！
ありがとうございました！



家族会協賛により「湘南花火」さんを招きました



ナイアガラも迫力満点！

今年は20年の記念すべき年ということで、行事を盛大に行っています。
これからのソレイユ川崎も、皆様と一緒に盛り上げていきます！

生活支援統括主任(課長) 吉田 英大

ソレイユまつり



シュシュトルテさん



バブリン先生の
シャボン玉ショー



あまるさんの大道芸ステージ

イベント

シャボンの輪に入ったり、大道芸
を体験したりもできました！
フルートの演奏はキレイでした♪



カレーや佐世保バーガーなど
出来たてを食べられました！
美味しかった～！！

キッチンカー



ゲームコーナー



6つのゲームから
やりたい物を選んで
遊びました！



令和 8 年度県予算編成に伴う要望に係わる懇談会

令和 7 年 10 月 15 日（水）、神奈川県心身障害児者父母の会連盟による神奈川県との懇談会が横浜開港記念会館にて開催されました。

要望書の内容については県から文書で回答を頂いていますが、それぞれの団体がより強く要望したい項目について意見交換をしました。

守る会から 4 項目要望しましたが、紙面の都合上重要事項 2 点のみの回答の掲載となりましたことをご了承下さい。

【要望】

療養介護型入所施設で働く人材が不足しています。人手不足による支援の質の低下や職員の皆様の疲弊が懸念されます福祉人材の職場への定着を促進する為に、大幅な基本報酬の引き上げや処遇改善を国に働きかけてください。

【回答】 人材確保については、県が指定した「かながわ福祉人材センター」において、就労希望者を対象に就職相談会等に取り組むほか、幅広い年齢層を対象に、研修と合わせて就労までを一体的に行う未経験者参入促進事業なども引き続き実施しています。

更に、合わせて企業等高年齢退職予定者等の障害福祉分野等への移転を促進する事業を開始しました。

また、研修を行う民間事業者等の指定を通じて、研修の受講機会を確保し、人材の確保に努めるとともに、一定の基準に基づく研修事業の指定や指定事業所の指導を通じて、質の高い人材の養成を目指してまいります。

一方、障害福祉の現場で働く支援員の待遇は、他業種に比べるとまだ十分とは言えずより一層の改善が必要と考えております。基本報酬については、令和 6 年度改定の効果を十分に検証し、人材の確保や施設経営の安定化、利用者支援の充実を図るため、それぞれの施設の利用実態に見合った報酬体系に見直すよう致します。

【要望】

湘南東部福祉圏域に療養介護型入所施設を新設してください。

【回答】 令和 7 年度これまで行っていた重症心身障害児者を看護する看護師を要請するための研修の更なる充実に加え、グループホーム設置に向けた先行事例の実態調査をしています。グループホームの設置に向け必要な施策を行い、湘南東部障害保健福祉圏域のモデル事業から知見を広げ、各障害福祉圏域において展開出来るように取り組んでまいります。

神奈川県心身障害児者父母の会連盟（父母連）とは「県守る会」を含む障害別親の会組織の連合体 10 団体が加盟した組織です。

「どうなる？入所施設」

ーこれからの重症心身障害者施設はどうなるのでしょうかー



令和7年10月4日（土）神奈川県重症心身障害児（者）を守る会主催の学習会が、かながわ県民センターで開催され30名の参加がありました。

講師には神奈川県重症心身障害児者関係施設協議会会長、社会福祉法人みなと舎ライフゆう施設長の水口浩一先生をお招きして「どうなる？入所施設」についてご講演を頂きました。

はじめに、入所施設には2つの側面があり、ひとつは「地域生活を支える側面」です。

主に暮らしの場として在宅、生活介護、グループホーム等の選択肢のひとつであるという側面であり、特にグループホームに移行しにくい障害支援区分5～6の方にとっての存在意義は大きく、「地域」での生活を担う場所として施設はまさにスキルのある資源の宝庫ではないでしょうか。

ふたつ目は「豊かな人生を支える側面」です。施設が医療的ケアの重度化と入所者の高齢化という大きな課題を抱えながらも重い障害を持つ人がより「豊かな人生」を生きるモデルを示していけば現代の「光」になるかもしれません。ものの見方や考え方を変えれば入所施設は可能性を広げる要素は沢山あり、今後も社会的に本当に欠かせない重要な存在になればいいのではないのでしょうかと締め括られました。

その後、意見交換会を行いました。それぞれの立場からの発言があってお互いに理解し合う事が出来ました。

心に残ったエピソード

水口先生のお話です。

ある時「ライフゆう」さんに女子高校生がボランティアで訪ねてきました。

そして、スタッフさんに「この方たちはなんで入所しているんですか？」と率直に質問したそうです。

スタッフさんは暫くじっと考えてから「一人の人として親からの自立です」と話されたそうです。

高校生はここでは一人ひとりが大切にされているのだなあと思ったのでしょうか涙ぐんでいたそうです。

私は情景が浮かんできて胸を打たれました。

人間として魂が震える程の経験をさせてもらったのではないのでしょうか。水口先生有難うございました。

高山 幸子



ライフゆう

[illegible]